

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2372100731		
法人名	有限会社マインド		
事業所名	グループホーム葵		
所在地	岡崎市丸山町字仲畑8番地1		
自己評価作成日	平成25年10月25日	評価結果市町村受理日	平成27年4月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1F		
訪問調査日	平成26年12月18日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとり残された能力を生かして生活をして頂き家族と生活している気持ちになって頂ける様に努めています
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「心安らぐもう一つの家」を事業所理念に、職員は利用者を自分の親として考え言葉使いなど注意して接する事を大切にしている。車イスや歩行器などを使っての移動を安易にできる環境が整えられており、利用者はラジオ体操や毎日の床ふきなど、居間を掃除したり、洗濯物をたたむなど生活リハビリを中心に行っている。利用者の状況は毎日更新のブログで写真を中心に紹介しており、家族にも好評である。事業所独自で職員の介護技術のスキルアップ計画を立てて、各自のレベルに合わせて研修を行っており、介護技術が向上している事業所である。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き生きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(心安らぐもう一つの家) 残された残存機能を生かして出来るだけ体を動かして生活をして頂いています。	リビングの目立つ所に大きく理念を掲げ、職員が共通認識の基で利用者と接している。自分の家族に接するように家族(利用者)の立場に立った接し方、思いやりの気持ちを持ち大切にする支援を職員全員で取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年2度目の男川学区防災訓練に参加させて頂きました。今年は利用者様二人参加できました。	毎日の散歩での挨拶が基になり地域との絆を大切にし、地域ボランティアとの交流や、夏祭り、クリスマス会には地域の子供達が沢山参加しプレゼント交換など利用者だけでなく、子供達も楽しみにしている取組みを進めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方達が気軽に立ち寄り頂ける様、常に開放しています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年の四月に町内の消防団の協力があり、一緒に消防訓練を行いました。	参加者は地区の総代さん、民生委員、子供会の役員も参加して2ヶ月毎の会議を行っている。施設の年間行事や消防団と合同の訓練、丸山地区の地域行事と議題は多様だが、利用者参加の活動を考え皆の協力の元進めている	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居希望の方を受け入れ出来るか解らない時は市の担当者に相談しています。	8月の岡崎市開催の集団講習会、小部会など積極的に参加し、市との日常的なやり取りは、直ぐに出向いて直接担当者に相談、報告を行い指導を受け、良好な関係を築けるように取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会で身体拘束について勉強を行っています。昼間は部屋の窓、玄関、非常口は鍵を閉めていない。 AM9:00~PM18:00	月1回の勉強会を開き事例を皆で検討している。又、講習会へ参加した職員が受講内容を職員に伝え共有し日頃の気付きは「ヒヤリ、ハット」に記入して職員全員が確認して拘束のない支援を常に心掛けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待について、普段行っているケアを見直し、気になる事があればすぐ対処話し合っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、必要な方は入居されていません。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、家族の質問を聞き入れ、十分な説明を行い納得をして頂いています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員の方が毎月訪問され利用者様の要望を聞き入れた時は伝えて頂いています。家族の方にも夏祭りの参加をして頂きました。	家族の意見を取入れる為、面会時や行事参加時に気軽に会話ができる対応をし、本人には入浴時などリラックス時の会話を中心に聞き出している。主に、日常的な会話の中で要望を聞き出す取組みをし運営に繋げている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	常に職員の意見を聞き入れる体制を心がけています。年に二回、上司と面談する機会を持っています。	管理者は気軽に何でも言える関係を保ち、年2回のスキルアップ面接時には会社、仕事への要望などを聞いている。職員は代表者との面談と年1回レポート提出し、レポートはコメントが必ず返って来て職員の励みにもなっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、人事考課を行い、向上心を持って働いてもらえる様にしています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スタッフ一人ひとりスキルアップ計画をたて、目標を持って仕事をしてもらっています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	二ヶ月に一度グループホーム小部会に参加し、同業者との交流を通してサービスの質の向上、人材育成に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様のこれまでの生活状況を把握し、本人にとってその人らしい暮らしを支えられる関係づくりに努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が気がかりな事や、要望などある場合、スタッフに伝えたり、相談出来るように声かけを行っています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必ず入居前に、現在利用されているサービスに訪問し、様子を聞きいれたり、家族に見学に来て頂き、話を伺い納得して頂き入居して頂いています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	余り手や口を出さず、利用者様のペースで生活して頂き、出来そうな事は見守りながら一緒に行う様にしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族や知り合いの方達の訪問が気軽に来る様に訪問時は気分良く過ぎて頂ける様に心がけています。 (挨拶、笑顔で対応)		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の方に余り負担にならない程度に外食、外出、外泊が出来るように働きかけています。	利用者の外出は家族との外食や外泊、墓参りにも毎年行っている。近くの食品スーパーへの買い物も職員と一緒に出掛けるなど本人の馴染みの生活を大切に支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一日の時間、ほとんどの使用者様は気の合う方とフロアで会話されています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在は行っていません。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人ひとりと会話し日々の行動、表情を見極め、何をしたいか、して欲しいか、理解出来る様に努めています。	利用時には家族の聞き取りと同じく、ケアマネジャーなど関わった周りの方からの話を多くの情報を収集することで、利用後のギャップを少なくして一日も早くその人らしい暮らしが出来よう取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の生活環境などを本人、家族に伺い出来る限り、利用者本位の生活をして頂ける様に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員の言葉がけ行動はゆっくりする様に心がけ、利用者様のペースに合わせる様にしています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者様一人ひとりの生活状況を観察し、要望を把握し介護計画を作成し、支援内容を共有出来る様にしています。	計画の見直しは個人ファイルを元に行う。利用時のファイルは多くの申し伝え情報が記入され、職員は利用者がより良く暮らすための課題を皆で捉え計画立案に繋げている。中でも見直しは日常関わっている職員の意見が一番強く反映されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の一人ひとりの経過表、水分摂取量、健康チェック等を記録し問題点を会議で話し合いを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の生活状況を家族に知って頂ける様に毎日ブログを行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に総代、民生委員、子供会の役員さんに出席して頂いており、夏祭り等の行事に町内の方にもボランティア参加をして頂いています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様の心身の変化や異常が起きた場合、気軽に相談出来る医療機関を確保しています。 (葵セントラル病院、田口栄一先生、往診月に一回有)	かかりつけ医の往診には希望すれば誰でも看てもらえ、緊急時の対応もして貰っている。歯科の往診も月1回行われており、適切な医療を受けていて安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	体調の変化が起きた場合、協力医との確実な連携を行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合、早期退院の為に話し合いや協力を医療機関と行っています。職員が一週間に一度見舞い、情報交換をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様が重度化された場合でもグループホームで行える支援を出来る限り行っています。	利用時に家族は重度の対応についての同意書にサインしている。その後の対応も先生が一連の流れを確認して、家族への連絡、各段階で専門医への連絡もしてもらえる良好な関係が出来ている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜間時、緊急対応のついでマニュアルを作成し、周知徹底を行っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所の町内の災害支援の方達に協力して頂ける事になっています。 一年に二回消防訓練を行っています。	毎年5月に行う消防訓練、避難訓練の他に、地元消防団の新人消防実践訓練も施設を利用してもらうなど、協力的関係が出来ている。防災グッズを見直し、今年は乾パンなどの食料品を中心に充実させるなど災害対策に積極的に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の言葉かけは、常に穏やかに接する様に周知しています。	利用者に対して、不適切な対応が見られた時、その場で注意をして改善に向けた対応を指導している。事業所全体の意識向上とプライバシーの尊厳保護の取り組みを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が出来る方、出来ない方関係なく、出来るだけ平等に要望に応じています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの気持ちを尊重し、出来るだけ個別ある支援をしていきます。自室で休んだり、散歩等、一人ひとりの思いに配慮しながら対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用の方にグループホームまで来て頂きカットを行っています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	庭の畑で収穫した野菜を食材で利用し、利用者様と職員と会話をしながら食事をしています。当日のメニューをボードに書いています。	近隣から食材を頂く機会が多く、新鮮な食材を利用した献立を決めている。南瓜の嫌いな利用者には形を変えるなど工夫するが、ミキサーまではしないで自然に食してもらうように捉えている。誕生会は特別メニューも考えて食事を楽しむ工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの食事量を主・副に分け10割で記入しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	洗面所に誘導し、口腔ケアをして頂いています。週に一度、義歯洗浄、歯ブラシを消毒しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄時間を表に記入し排泄時間を把握し、なるべく失敗が減少する様になっています。	利用者の普段からの様子、排泄のパターン習慣などチェック表と合わせて声掛けをし個別のトイレへの誘導を行っており、自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫や運動をして頂き、自然な排便が出来る様に働きかけていますが二日排便が無い方は下剤を服用して頂いています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	現在一日おきに入浴をして頂いています。入浴を嫌がる利用者様は無理に介助せず時間をずらして入浴を行っています。	入浴は一日おきに行い利用者の状態、意向に合わせて行っている。利用者で診断報告書などを下に職員で話し合いシャワー、足浴、清拭に変える時もあるが、出来る限りの入浴支援に取り組んでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天気の良い日には、庭に出たり、散歩に出掛けたり身体を動かして頂き、生活のリズムを整える様に努めています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋の用紙を一人ひとり経過表に挟み、職員が把握出来る様になっています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常生活の中で役割分担を決め仕事をしたいという充実感を味わって頂ける様に努めています。 (掃除、ベットメイキング、洗濯干しなど)		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は散歩などの外出の機会を設け家族にも積極的に外食などの時間を設けて頂いています。	散歩を朝夕に行い、地域の人と会話するなど情報交換の場として活用している。雨の日にはポンチョを着て散歩を楽しんでいる。近くのスーパーでは利用者が一人でも来ても事前に話を通っており何も問題が無い関係作りが出来ている。日曜の家族との外出も多く見られて外出の支援を積極的に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な限り、希望の応じて家族が渡されたお金を所持して買い物などしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればその都度対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	フロアの壁には、季節に合った飾り付けや、誕生日の写真、利用者様の作品を展示しています。	朝食後には利用者みんなで清掃が始まり、フロアを始めトイレなど共有部分を中心に行っています。壁には誕生日の写真などが飾られ、日常も利用者は部屋でなく共有部分で一日過ごしている。中には演説が始まるなど、賑やかだが心地よく過ごせる工夫と配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前には、ソファが設置してあり気軽に座ってくつろげる様に工夫してあります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時本人の慣れた物を持参して頂いています。(手作りの人形、家族の写真等)	居室スペースは使い慣れた筆筒やテレビ、写真、話し相手のぬいぐるみなど、その人らしいお気に入りのグッズも持ち込まれ、利用者が落ち着いて居心地が良く生活出来る配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	フロアに手摺を設置しています。トイレの入り口に目印が貼ってあります。		